



2019年度

(令和元年度)

事業報告書

第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

第2 事業の概要

- 1 2019年度 事業方針
- 2 2019年度 法人 事業報告
- 3 2019年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2019年度 小学校 事業報告
- 5 2019年度 こども園幼稚園 事業報告

第3 財務の概要

- 1 財務の経年比較

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

法人の名称	学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所	大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号	072-721-7680
設立	1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としています。聖マリ・ウージェニーは、1817年8月25日フランスのメッツで生まれ、2017年8月に生誕200周年を迎えました。

聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立しました。

日本では、1952年にフィリピンとヨーロッパから5人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備いたしました。1954年に学校法人として認可されて以来、今日までの64年間、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園幼稚園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2 学院のモットー、教育理念

(1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

(2) 教育理念

イエス・キリストの教えに基づいて、

- ① 真理と善をもとめ
- ② 他者を愛する人間性を育み
- ③ 社会に平和と正義をもたらすために
- ④ 自らの生を生き抜く人間の育成に努める。

3 学院の沿革と概要

(1) 法人設立認可年月日

1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1987年（昭和62年）4月1日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

(2) 学校園設置認可年月日

1954年（昭和29年）2月9日幼稚園設置認可

1954年（昭和29年）2月9日小学校設置認可

1959年（昭和34年）11月6日中学校設置認可

1962年（昭和37年）9月29日高等学校設置認可

1967年（昭和42年）1月23日短期大学設置認可

2005年（平成17年）7月29日短期大学閉学認可

2015年（平成27年）3月31日幼稚園廃止認可

2015年（平成27年）4月1日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2019 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区分	収容定員数 (A)	現員数 (B)	収容率 (B/A)
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園	318	275	86.5%
アサンプション国際小学校	360	267	74.2%
アサンプション国際中学校	240	141	58.8%
アサンプション国際高等学校	370	311	84.1%
合計	1288	994	

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は 2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5) 役員、評議員の概要

2019 年 5 月 1 日現在（単位：人）

職務	定員数	現員数
理事	7	7
監事	2	2
評議員	15	15

(6) 教職員の概要

2019 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教員	本務	18	26	21	21	86
	兼務	17	13	12	10	52
職員	本務	6	6	3	4	19
	兼務	0	0	0	1	1

第2 事業の概要

1 2019年度 事業方針

アサンプション国際 2019年度 事業計画と概要

(事業目標)

- (1) 経営再建として5カ年をめどに単年度収支の黒字化を図るため、下記の募集人数を確保する。
- | | | | | |
|------|----------------|--------|------------|-----------|
| 小学校 | 60名 (募集定員 60名) | ⇒ 事業実績 | 2019年4月新入生 | 66名 |
| 中学校 | 50名 (同 80名) | ⇒ 事業実績 | 2019年4月新入生 | 56名 |
| 高等学校 | 130名 (同 130名) | ⇒ 事業実績 | 2019年4月新入生 | 126名 |
| | (合計 240名) | | | (合計 243名) |
- (2) 小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。
- (3) 学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

(事業展開)

- (1) 広報活動に従来を超える工夫と、実行を行う。
- (2) 学ぶ生徒児童が、将来に大きな希望と自信が持てる教育。私立学校として、公立では学べない豊かな教育を実施。また、他校との差別化を図る教育への探求と行動。
- (3) 21世紀型教育の根幹、真の思考型(探求)を実施し世界標準教育を行う。アクティブラーニングは、多くの学校で正しく理解されず言葉が陳腐化したともいえるので、PBL (Project Based Learning 課題解決型教育) と呼称することとする。
- (4) ICT教育は、新中学1年新高校1年から実施。
- (5) 小中高一貫教育を目指す元年とし、小中一貫と高校を結びつける研究、試行を行う。
- (6) 中学高校男子生徒の募集強化に努め、25%確保に努める。

(事業実績) 2019年度在校生の内訳

	男子		女子		計
小学校	68	25.5%	199	74.5%	267
中学校	52	36.9%	89	63.1%	141
高等学校	126	40.5%	185	59.5%	311
計	246	34.2%	473	65.8%	719

2 2019年度 法人 事業報告

1 近年の入学生激減から脱却し、増加傾向に転換した。

- ① 本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954年(昭和29年)2月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987年(昭和62年)4月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005年(平成17年)7月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。
- ② しかし、近年は少子化の影響をもろに受け、2015年4月には小学校入学生が15名と激減した。

近年の5月1日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
幼稚園	324	282	307	288	318	310	314	308	309	296	285	275
小学校	360	316	302	284	267	247	222	189	179	208	244	267
中学校	240	207	197	184	181	174	149	133	133	117	127	141
高校	240	171	176	199	197	186	174	172	164	184	233	311
総合計	1164	976	982	955	963	917	859	802	785	805	889	994
小中高計	840	694	675	667	645	607	545	494	476	509	604	719
小中高収容定員充足率		82.6%	80.4%	79.4%	76.8%	72.3%	64.9%	58.8%	56.7%	60.6%	71.9%	74.1%

2 2019年度の生徒・児童数増加による教室改修工事等の概要は次のとおりである。

工事概要	金額 (円)
幼稚園ブロック塀施行	1,239,430
2階AIE教室改修工事	5,616,000
北館教室窓転落防止設置工事	972,000
3階講義室扉改修工事	216,000
3階講義室アッテナ移設工事	378,000
3階トイレ補修工事	2,322,000
屋根シングル補修工事	1,296,000
講堂建具補修工事	1,512,000
体育館2更衣室改修工事	507,600
グラントスピーカー5台	453,600
図書室改修工事	1,630,800
北館2階理事会議室を普通教室に改修工事	31,295,000
北館3階図書準備室を普通教室に改修工事	
西館2階LL教室を書道教室に改修工事	
西館2階書道教室を普通教室2つに改修工事	
小学校3階多目的室を普通教室2つに改修工事	
小学校3階AIE教室の改修工事	
合計	47,438,430

3 2019年度 アサンプション国際中学校高等学校 事業報告

【理念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21世紀型教育」の充実と定着

【最重要課題】

1. 入学者の確保 中学校65名以上、高等学校135名を目標とした広報戦略の強化。
2. アサンプション 21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。
3. 学校改革に見合った施設設備の充実。

【最重要課題に対する施策と評価】

1. 入学者の確保

- (1) Web ページによる情報発信力の強化⇒広報戦略会議を小・中高と連携する。
- (2) 各説明会の目的を明確にし、内容を充実させる。
- (3) 学校評価アンケートを有効活用した、内部満足度の向上。

【評価】

- ①中学志願者は72名、入学者は52名であった。
 - ・外部志願者は3年連続で10名ずつ増加(2018年50名→2019年60名→2020年72+1名)
 - ・外部からの入学者も3年連続で増加(2018年36名→2019年38名→2020年42+1名)
 - ・しかし併設小からの進学者が3年連続で減少(2018年22名→2019年18名→2020年9名)
- ②高校志願者は110名、入学者は91名であった。
 - ・帰国生入試受験者は大幅増加(2018年1名→2019年0名→2020年8名)
 - ・併設中からは30名中28名が進学(内部進学率93%)と割合が上昇した
 - ・外部志願者の成績は平均評定3.7、英語の平均評定4.0と受験層はレベルアップした。
 - ・外部志願者は昨年度13名減少(2018年119名→2019年123名→2020年110名)
 - ・併願者の戻り率が23.3%と例年よりかなり低かった(2018年35.6%→2019年44.1%)
- ③サッカー部の募集をめぐるトラブルが複数あった
 - ・基準に満たない生徒について、所属チームが中学にクレームを入れたことの苦情 2件
 - ・スカウティング時の言葉をめぐる中学からの苦情 1件
→都度スカウティング側に情報を伝え対応に当たったが、次年度の手順について協議が必要
- ④入試広報室の役割が安定しない
 - ・塾説明会を担当する広報室長が、説明会の直前に退職となり、準備が混乱した。
→2020年度に向けては入試広報部との連携を図るために広報部長を兼任することで調整する
- ⑤学校評価アンケートでは
 - ・生徒アンケートから見るとクラス・学年への満足度は高く、学校生活は楽しめている
 - ・生徒・保護者とも学校行事・諸活動への満足度は高いが、中学では学習習慣づけ、宿題、授業への不安、高校では授業だけで大学入試に対応できるかの不安がある。
 - ・自由記述では、突然の共学化・サッカー部設立・同部への奨学金など学院の方向性が見えないとの不満が多くみられた。
→内部の生徒・保護者の満足度向上には、進路実績の向上や学院方針の安定が不可欠

2. 教育力の向上

- (1) 英語イマージョン教育の充実
 - ①2019年よりイマージョン部を分掌に独立することにより、12年間計画を立てる。
- (2) PBL教育の推進
 - ①2019年度より分掌にかきょろマネジメントを置き、PBLをさらに充実する。

(3) ICT教育の推進

①2019年度よりICT支援員を学院に置き、教育機器として全生徒にiPad導入、活用。

(4) グローバル教育の充実

①国際交流プログラム・短期留学の充実⇒2019年から分掌に「国際交流」を独立させた。

②語学検定等、資格取得の促進（卒業時にCEFR B1～B2レベルの生徒の割合60%を目指す）

③海外進学を意識したイベントの充実と実績を出す。

(5) 進路実績の向上

①関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を出来る限り使用できる生徒を増やす。

②進路指導を充実させ受験による進学実績の向上を目指す

③入学者数増、クラス数増の中で「個々の能力にあった教育」の体制維持

(6) 教員個人の教育力向上

①授業力向上のため初任教員（5年以内）への教科指導教員制度を2019年度より導入する

②若手教員向けの教員研修を充実差する

【評価】

①21世紀型教育の3本柱について

- ・イマージョン部を設置し、イングリッシュランチの実施や外国語教員同士への連絡を密に行えるようになった。→次年度は外国語教員の意見をさらに吸収できるよう改組する
- ・PBL教育については多くの授業で自然に取り組みれるようになった
→カリマネ部を廃止、プロジェクトチームを通じて横同士の実践共有を次年度は行う段階
- ・ICT教育について、全学年が端末を保有し各授業で活用が進んだ
とくに3月以降の臨時休業時の連絡・教材配信では大きな役割を果たすことになった

②進路実績の向上

- ・指定校・AOを活用して、上智大学3名、関西学院大学6名、関西大学3名など実績を出した
2021年度は関西学院大学へ2ケタの進学者を出したい
- ・関学の協定校推薦枠や他の難関校の推薦枠も余った。
(指定校推薦...関学 6/19、上智 3/4、法政 0/1、関大 3/7、近大 0/2、甲南 1/1、龍谷 0/1 など)
- ・一般受験では国公立2名の合格者を出したが、一般受験まで残る生徒を増やす必要がある
- ・AO入試、公募推薦入試では、超安全志向の影響で例年以上に厳しい結果となった。

③教員個人の教育力向上

- ・教科指導教員制度を設け、教科によっては授業参観を行うなど有効に活用できたが、多忙の中定期的な指導を行うまでには至らなかった。
→外部研修の推奨、自主研修の実施など今年度違う方法で研修が進むように取り組みたい

3. 学校改革に見合った組織と施設設備の充実

(1) 中高男子サッカー部についての長期計画を検討する

(2) クラス数増（新中1：3クラス、新高1：4クラス）に見合った教室を整備する

(3) 部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う

(4) 小学校との連携

【評価】

①サッカー部の長期計画について理事会で検討されたかどうか、決まった内容は不明である

→現況の委託費用・設備で可能な人数・範囲の確認を理事会・T社で行う必要あり

②教室整備工事について

・クラス増に伴う教室工事は2020年3月時点でほぼ終了した。

・サッカー部室・更衣室の改善工事も終了した

・ICT環境について、メディアルーム前室の旧PC、無線LANの不安定な部分の改善が必要

③小学校との連携

・保護者会等に管理職が出向いて学校概要を説明した。

4 2019年度 アサンプション国際中小学校 事業報告

【理念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着

【重点課題】

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イメージ教育の定着と組織化
- (3) 学院的課題…募集60名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 幼・中高教職員間…内部進学制度の充実と教員の相互補完
- (5) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

- ①研究研修体制…新任教員研修は、計画的に実施できなかった。
研究授業は、一部の教員で実施し意見交換などができた。
外部講師招聘により授業研修を行った。
- ②分掌連絡会の活性化（組織力）…2020年度に向けカリキュラムマネジメントを作成した。
- ③メンバー大幅入れ替え…学級経営について、指導の統一ができなかった。
児童支援・管理職が学級経営・教科指導のサポートを行った。

(2) 英語力（イメージ）強化

- ①小学校にイメージコーディネーターの配置
…小学校内でイメージ担当者会議を定期的に行い、指導内容・評価の統一を行った。
- ②イメージ授業レベルアップと全学年への拡大。
…在籍児童の状況により、学年・クラスにより指導の差が生じた。
…研究授業の実施は1年生1回に留まった。
- ③低学年イメージ手法の確立
…小学校内のコース変更ルール確定し、保護者へ周知をした。
…低学年～高学年へのカリキュラム作成はできなかった。
- ④中高のイメージ部と連携して、12年一貫体制展望を確立
…一期生進学に向けての課題について、小中高で確認をした。
…具体的な指導・カリキュラムについては作成できなかった。

(3) 学院的課題＝募集大増強（60名必達）

- ①説明会手法の見直し強化…授業紹介と成果物紹介のDVDの作成・活用
…説明会参加者数が増。アンケートによる満足度は、9割が高く評価している。
…PBL・英語学習、特色教育（礼拝）の動画を作成し説明会で使用した。
- ②親密学習塾、親密英語幼稚園等との連携強化
…年間を通じて、説明会・入試前後に訪問活動を行った。
…外部幼児用室での説明会回数は増。
- ③入学試験の抜本的見直し
…入試については、特に変更を行わなかった。

(4) 幼・中高教職員との連携強化

- ①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施
…5月に年長、2月に年中・年少への説明会を行った。
…推薦制度とコース決定方法を周知し、混乱なく実施できた。
- ②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施
…5・6年生に対して、イメージ授業見学を行った。
…一般向け説明会の案内を行ったが、各回参加者は一桁に留まった。

③教員交流促進

- …イマージョン、ネイティブ教員交流は、適宜行った。
- …生活指導、人権の会議を担当者が合同で実施し、情報交換を行った。
- …中高生徒会と小 A.S.A.が合同企画行事を行った。

(5) 宗教教育再生・強化

①学院全体の宗教委員会の立ち上げ

- …園校別の課題はあると思われるが、委員会立ち上げには至っていない。

②「宗教の時間」への教員の参画機会増強

- …礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会があった。
- …学級担任は、週1時間の「宗教」授業に参加した。

③教員に対する宗教教育実施

- …研修としては行っていないが、朝礼での朗読や日々の教育活動の中で、祈る機会が設定されている。

4 2019年度 アサンプション国際幼稚園 事業報告

2019年度活動テーマ

「子どもの自立・自己肯定感を高める保育」

人格形成の大切な幼少期に、様々な体験を通して子どもが遊びの中から学び、強く優しい体と心を育む。

在籍者数及び入園者報告

2歳児 12名 3歳児 83名 4歳児 87名 5歳児 102名

(2020年3月末実績)

2019年度重点取組内容についての報告

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ・遊びを通して主体的・協働的な学びができる保育を強化し、カリキュラムをブラッシュアップする。
 - (a)縦割りでの自由制作活動を増加する
- ・保育内容や体験活動をより充実させ、子どもたちの知的好奇心を高めるとともに、小学校をはじめ他所属との交流を活発にし、学院全体で園児を見守ることで、一貫教育のよさを伝える。
 - (a)園児と小学校児童・中学高等学校の生徒との交流の企画
 - (b)園児と他所属教員との交流の企画
- ・敏感期の子どもたちの自立や自己肯定感を育むモンテッソーリ教育や縦割り保育、横割り保育、その他の体験活動を充実させる。
 - (a)学外講師を招いた体験活動の増加（演劇鑑賞・体験講演等）
- ・担任による日々の宗教教育に加え、シスターによる神さまのお話を実施する。
- ・幼児体操専門の指導員を招き、心と体の鍛錬と体力の向上を図り、子どもたちの運動能力を伸ばすための体操保育を実施する。
 - (a)コヤマスポーツスクールによる体操保育の実施
- ・幼児英語専門の指導者のもと、ゲームで遊んだり歌ったり、楽しみながら自然に英語や国際感覚を身につける英語保育を実施する。
 - (a)中学高等学校教員と本園教員による英語教育カリキュラムの構築と実施

(1) についての報告

*縦割り保育の時間を増加し、クラスごとに活動する時間を増やした。

(a) 子どもの自立や問題解決能力をつけるため、活動内容の企画、運営などの一部を子どもたち自身で考え行動できるような保育を実施した。

*知的好奇心を高めるための体験活動（栽培活動・調理実習・チャリティ制作活動・消防署見学・書道展覧会作品出品等）を実施することができた。学院全体での交流活動については活動内容によって実施できたものとできなかったものがあった。

(a) 中学高等学校からの海外留学生との交流会、小学校「みんなであそぼう」など、他所属との連携を図ることができた。

(b) 園児と他所属教員との交流は学院合同の避難訓練時にできたが、それ以外の企画はできなかった。今後さらに交流会数を増やすことが必要である。

*縦割り・横割りの保育内容を再構築し、体験活動の回数を昨年より増加した。

(a) 外部講師を招いた体験活動増加（書道体験・演劇鑑賞・奈良フィルハーモニーを招いての音楽鑑賞）

*子どもたちの運動能力を伸ばすための体操保育を実施した。今後、さらに戸外遊びを増やし、体力づくりを目指す。

(a) コヤマスポーツスクール講師による体操保育を年間38回実施した。

*週1回、中学高等学校のネイティブ教員による英語保育を実施した。

(a) 英語教育のカリキュラムを構築したが、週1回のレッスンや学年に応じた指導に課題が残った。2020年度は外国人教諭を常駐することで普段から英語に触れる機会を増やす。

(2) 教員のレベル向上

・教員スキル向上研修や公開保育、メンタルヘルス対策、学校カウンセラーによる教育相談を実施する。

・モンテッソーリディプロマ保持者による指導方法の伝授や教材作成を実施する。

・神父様や宗教担当者による研修を実施し、カトリック教育の理解を深める。

・新任研修、保育参観指導・研修を充実させる。

(2) についての報告

*学校カウンセラーによる教育相談を実施した。また、マルチリトメントについての理解を深め、適切な援助ができるよう定期的な研修を実施した。（専任・常勤・パート職員全てに実施）

*年間15回以上のモンテッソーリの内部研修を実施。新任研修も外部、内部それぞれで研修を実施した。教材も必要に応じてその都度作成した。

*大阪大司教区カトリック研修会に参加した。シスターの神様のお話に加え、カトリック益田教会より大西勇史神父を迎え、宗教研修は実施しカトリックへの理解を深めた。

*毎月1回、職員研修会の日を設け実施した。

2. 教育環境の整備

・子どもたちが毎日過ごす環境を、明るく・美しく・安全に整える。

・自家用車送迎を希望する家庭には、毎年度申請制とし、「立体駐車場使用許可証」を発行する。本学院内に車で入構する場合はフロントガラス内側に呈示するよう徹底し、安全管理に努める。

・自転車通園・徒歩通園の家庭には、マナー登降園指導を実施し、安全管理に努める。

2. についての報告

*園庭の遊具の安全チェック、各保育室・室内遊具の除菌など、子どもが安全に生活できる空間を確保しながら保育した。園庭にある大木やフェンス周囲にある植木については計画的に剪定・メンテナンスする必要がある。

*保護者に、自家用車での通園には必ず「立体駐車場使用許可証」を提示するよう促した。

また、自転車や徒歩通園でも、マナーを守って安全に登降園できるよう、教員が迎え入れや送り出しをするようにしていた。

*近隣（ファミリーマート等）に無断で駐車する在園児の車を取り締まり、手紙での注意喚起をこまめに行った。

3. 社会連携・奉仕事業

- ・地域子育て支援のイベント「みんなであそぼう」を定期的実施する。
- ・子育て支援事業として、子育て相談員（主幹教諭）を配置する。

3. についての報告

*地域子育て支援のイベント「みんなであそぼう」を年間10回（園庭開放を含む）実施した。

2月・3月については新型コロナウイルス感染症防止のため、政府の方針に従い実施を見合わせた。

*子育て相談員を設置したが、利用者はなかった。2020年度は、地域子育て支援実施園として、保護者に広く周知する。

4. 募集・入試に係る事業

(1) 募集活動の強化

- ・2020年度入園者数の目標を90名とし、募集活動をより一層強化する。
- ・2020年度用に新たに作成した園案内を、説明会出席者や来園者に配付する。
- ・ホームページをブラッシュアップする。（デザイン・掲載写真の更新）
- ・園庭開放を定期的実施し来園者を増やす。

(1) についての報告

*2020年度の入園者数は78名となり目標達成には及ばなかった。一方で職員の退職もあり、昨年同様、園児数に対して教員数（加配教員も含む）が不足しているのが現状である。園児数の確保のためには教員数の確保が必要である。

*新しい園案内を作成し、説明会出席者や来園者に配布した。

*ホームページ上の写真の更新や日々のブログを更新し、最新の情報を提供するようにした。

*地域子育て支援イベント「みんなであそぼう」と同様に園庭開放を実施した。

(2) 関係各所との連携

- ・一人ひとりをきめ細やかに見守り、大切にす一貫教育のよさを活かす。
- ・内部進学制度（園長推薦）の構築とその周知徹底をはかる。
- ・小学校との計画的な交流や連携を強化し、幼小一貫教育に力を入れる。

(2) についての報告

*内部進学する子どもたちの状況を小学校と情報を共有し、幼稚園卒園後も引き続き細やかな配慮ができるように話し合いの場を持った。

*全学年の保護者を対象に内部向け入試説明会を実施し、園長推薦について在園児保護者に周知した。2020年度は14名が内部進学した。

*幼稚園と小学校の教育繋がりを密にし、説明会や行事における評価や課題を共有することができた。

第3 財務の概要

1 財務の経年比較

資金収支計算書						
●入学者数						
	2015	2016	2017	2018	2019	
高校	61	45	79	118	122	
中学	45	44	30	58	54	
小学校	15	35	67	67	67	
認定こども園	103	106	105	83	83	
合計	224	230	281	326	326	
●在籍者数						
	2015	2016	2017	2018	2019	
高校	172	164	184	233	304	
中学	133	133	117	127	139	
小学校	189	179	208	244	265	
認定こども園	308	309	296	285	285	
合計	802	785	805	889	993	
●教職員数						
	2015	2016	2017	2018	2019	
高校	教員	18	17	18	22	21
	職員	1	1	1	1	1
中学校	教員	15	14	19	22	21
	職員	1	1	1	2	1
小学校	教員	14	15	21	23	25
	職員	1	1	2	2	1
認定こども園	教員	16	20	19	17	16
	職員	2	1	2	2	2
法人	職員	6	7	7	7	8
合計	教員	63	66	77	84	83
	職員	11	11	13	14	13
●資金収支計算書						
項	目	2015	2016	2017	2018	2019
収入の部	学生生徒等納付金収入	360	362	393	489	521
	手数料収入	11	12	12	7	6
	寄付金収入	9	2	205	72	7
	補助金収入	297	298	298	338	426
	資産運用収入	2	0	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	事業収入	45	45	47	18	16
	付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
	受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
	雑収入	41	45	26	14	11
	借入金等収入	0	120	50	470	83
	前受金収入	30	44	55	69	50
	その他の収入	519	455	482	560	675
	資金収入調整勘定	△ 78	△ 92	△ 72	△ 84	△ 122
収入の部小計(A)	1,236	1,292	1,497	1,951	1,671	
前年度繰越支払資金	50	28	44	78	202	
収入の部合計	1,286	1,319	1,541	2,030	1,873	
支出の部	人件費支出	628	717	680	638	729
	教育研究経費支出	92	99	134	141	169
	管理経費支出	70	118	97	130	132
	借入金等利息支出	5	5	5	19	9
	借入金等返済支出	19	19	19	198	53
	施設関係支出	2	27	1	106	52
	設備関係支出	21	4	22	13	14
	資産運用支出	33	102	81	137	138
	その他の支出	433	309	465	455	491
	資金支出調整勘定	△ 44	△ 125	△ 41	△ 47	△ 34
	支出の部小計(B)	1,259	1,276	1,463	1,828	1,753
	翌(次)年度繰越支払資金	28	44	78	202	119
	支出の部合計	1,286	1,319	1,541	2,030	1,873
	(A-B)年度収支差額	△ 23	16	35	123	△ 82

事業活動収支計算書

項 目		2015年度決算	2016年度決算	2017年度決算	2018年度決算	2019年度決算
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	事業活動収入の部					
	学 生 生 徒 等 納 付 金	360	362	393	488	521
	手 数 料	11	12	12	14	6
	寄 付 金	10	2	206	0	7
	補 助 金	297	297	298	301	426
	経 常 費 等 補 助 金	2	0	0	0	0
	資 産 運 用 収 入	0	0	0	0	0
	事 業 収 入	45	45	47	50	16
	付 随 事 業 収 入	0	0	0	0	0
	雑 収 入	8	45	4	2	2
教育活動収入計	733	764	960	855	978	
11 12 13 14 15 16 17	事業活動支出の部					
	人 件 費	582	699	655	629	729
	教 育 研 究 経 費	182	190	224	323	169
	内 減 価 償 却 額	90	91	90	91	93
	管 理 経 費	71	119	98	140	132
	内 減 価 償 却 額	2	1	2	1	2
	徴 収 不 能 額 等	0	0	0	0	2
教育活動支出計	927	1,100	1,069	1,185	1,121	
教育活動収支差額	△ 194	△ 336	△ 109	△ 329	△ 144	
19 20 21 22 23 24	事業活動収入の部					
	受 取 利 息 ・ 配 当 金	0	0	0	0	2
	そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0	0	0
	教 育 活 動 外 収 入 計	0	0	0	0	0
	事業活動外収入の部					
借 入 金 等 利 息	5	5	5	5	9	
そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0	0	0	
教 育 活 動 外 支 出 計	5	5	5	5	9	
教育活動外収支差額	△ 5	△ 5	△ 5	△ 5	△ 9	
経 常 収 入	733	764	960	855	978	
経 常 支 出	932	1,104	1,074	1,190	1,131	
経 常 収 支 差 額	△ 199	△ 341	△ 114	△ 335	△ 153	
29 30 31 32 33 34	特別収入の部					
	資 産 売 却 差 額	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 収 入	0	1	7	0	0
	特 別 収 入 計	0	1	7	0	0
	特別支出の部					
	資 産 処 分 差 額	1	0	2	0	7
そ の 他 の 特 別 支 出	0	1	0	0	0	
特 別 支 出 計	1	1	2	0	7	
特別収支差額	△ 1	△ 0	5	0	△ 7	
基本金組入前当年度収支差額	△ 200	△ 341	△ 110	△ 335	△ 160	
(参考)						
基本金組入前当年度収支差額(減価償却控除前)	△ 108	△ 249	△ 18	△ 243	△ 69	
事業活動収入計	733	765	966	855	978	
事業活動支出計	933	1,105	1,076	1,190	1,138	
人件費比率(寄付金控除後)	79.4%	91.4%	86.1%	73.6%	75.1%	
基本金組入前当年度収支差額(減価償却控除前)	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度予算	
中高収支	△ 83	△ 111	△ 142	△ 60	△ 55	
小学校収支	△ 11	△ 58	△ 40	△ 6	19	
認定こども園収支	3	△ 50	△ 7	8	15	